



にしたて

学校教育目標

ふるさとと共にかがやき、
よりよく生きる子どもの育成

～ありがとうを丁寧な言葉と
心を込めた振る舞いで伝えよう～

大館市立西館小学校 大館市比内町笹館字前田野 7 7 番地 (TEL55-0324) 令和 7 年 9 月号 (R 7. 9. 1 9)

いよいよ学習発表会

学習発表会が、来週に迫っています。体育館からは、毎日子どもたちが練習に励む声が響いてきます。今年の学習発表会の目玉をいくつか紹介させていただきます。

一つ目はなんといっても、各学年（学団）のステージ発表です。劇の練習を通して、「人と人とのつながり」を大切にしながら、自分の役割をやり遂げています。「言葉のつながり」を大切に、気持ちを表しています。「心のつながり」で、劇の中で伝えたいことを見ている人に伝えようとしています。劇をつくり上げるにあたって、みんなと協力して「つながり」を大切にしながら、頑張りました。子どもたちの劇を通して、「人が様々なつながりを大切にしながら一つの目標に向かうことのすばらしさ」を感じながら演じている子どもたちの気持ちが伝わってほしいなあ、と思っています。

二つ目は、子どもたちのアイディアで生まれた新企画です。昨年度は、150周年ということで、スカイランタンを飛ばすなどし、あらためて地域の方々とのつながりを深く感じることができました。これからも、地域と共に歩む西館小学校であるために、会場にいる皆様と何か一体となることができることはできないかと思いました。そこで、今年度は、学習発表会で地域の方々や保護者の皆様に笑顔を届けようということで、「自分で 自分たちで」どんなことができそうか、子どもたちにアイディアを出してもらい、新企画二つ実施します。

まずは、全校合唱での新企画です。「もみじ」を歌いますが、見に来てくださった方々とも一緒に歌う場面を設定しました。子どもたちと一緒に美しい秋を感じ取りながら、歌っていた、会場いっぱいに秋の気配を響かせたいです。

もう一つは、バルーンリリース（風船上げ）です。子どもたちの夢と希望を風船にたくし、大空に飛ばします。151年目の新たなスタートということで、151個の風船を飛ばします。子どもたちの輝く未来を願って、皆さんで大空を色とりどりの風船で埋め尽くしましょう。一人一人の未来は、明るく素晴らしいものだということを西館っ子、そして保護者の皆様、地域の皆様に感じてほしいです。

一人一人の力を結集し、見に来てくださった方々も一緒になって心を合わせることができる学習発表会になるよう、学び（練習）を進めてきました。どうぞ、ご家族、地域の皆さんで来校いただき、お楽しみください。

(校長 田山 律子)

- ひと ひと
- ① 人と人とのつながり
- ことば
- ② 言葉のつながり
- こころ
- ③ 心のつながり

9月27日 学習発表会 地域の皆様へご案内

西館小学校学習発表会が近づいてまいりました。学習発表会では西館地区の皆様に子どもたちの歌や演奏、劇をご覧いただき、一緒に楽しんでいただけると幸いです。

また、今年度は学習発表会終了後に新企画として、「バルーンリリース（風船上げ）」を学校のグラウンドを会場に行います。子どもたち一人一人が、「かがやく未来へ」と想いを乗せた風船をご覧いただき、西館っ子を応援してくださるようお願いいたします。

西館小学校 学習発表会の日程

☆9月27日（土） 8:50～11:50

- 8:50 オープニング・開会の言葉
- 9:00 各学年発表
- 10:10 休憩・校長挨拶
- 10:30 巫女舞
- 10:37 全校合唱
- 10:50 閉会の言葉
- 11:30 バルーンリリース（グラウンド）

テーマ
あきらめない心！
ゆうきをもって
チャレンジ！
みんなで助け合い！
一人一人が
かがやく未来へ

5年生 曲げわっぱ制作体験



9月8日（月）に5年生が、大館市の伝統工芸である曲げわっぱで、お弁当の器作りを体験しました。曲げわっぱ工房E08の講師の方に教えてもらいながら、杉材を器の型に合わせて丁寧に曲げて、つなぎ目を桜の皮で留めました。底板や底枠を木づちで打ち込みながら作業を進めていくと、少しずつ器の形が出来てきました。職人のように真剣に曲げわっぱ作りに集中する子どもたちでした。完成した曲げわっぱ弁当は、実際に給食で使ってご飯を食べます。曲げわっぱ弁当で食べるご飯は、杉の香りと自分で作った充実感で美味しく感じることでしょ。貴重な体験と共に、ずっと大切にしていきたいと思います。

介護のお仕事PR隊

9月12日（金）に、3・4年生が介護のお仕事について学びました。疑似体験で車椅子、目隠しや装具を身に付けて歩行するなど、体が不自由な人の体験をしました。「車椅子は段差が大変」「目隠しで見えない」「装具でうまく歩けない」など体験しながら、介護の仕事が体が不自由な人にとって、とても大切な仕事であるということを実感できました。将来、子どもたちの中から、この仕事に関わる人がいるかもしれません。

